

令和7年度 第3回 栃木特別支援学校 学校運営協議会（拡大熟議） 議事録（抜粋）

日時	令和7年8月27日（水）13:30～16:00
会場	本校肢体不自由教育棟各教室
参加者	学校運営協議会委員 12名 ファシリテーター 4名 サポートメンバー 8名 本校教員 約130名

1 開会【進行：事務局】

2 校長挨拶

本日は、御多用の中、第3回学校運営協議会・拡大熟議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。本来であれば校長である私がお挨拶を申し上げるべきところ、臨時校長会のため、誠に恐縮ながら、本日は教頭が代読させていただきます。

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、本日は下都賀教育事務所をはじめとする皆様にファシリテーターとしてご協力いただき、心より御礼申し上げます。

本日は学校運営協議会の皆様に加え、本校の全教員、そして日頃から本校を支えてくださっている元 PTA 役員の皆様など、総勢150名程の皆様にお集まりいただきました。このような形で皆様と直接お話できる機会を設けられたことを大変うれしく思います。

本日の協議会は「学校教育目標実現のために夢や思いを語り合う」ことです。子どもたちの成長を願い、一人ひとりの夢を育むために、私たちができることは何か。それぞれの立場で、それぞれの思いを語り合う場にしたいと思っております。

皆様の貴重なご意見は、今後の学校運営に生かしていく上で、欠かせない羅針盤となります。どうぞ活発な意見交換をお願いいたします。

本日は長時間にわたる協議となりますが、実り多い会となりますよう心より願っております。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

3 協議

（1）今年度のコミュニティスクールで目指すこと【椎名副主幹】

- ・「一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、地域社会で豊かな生活を送るために必要な力を育成する」という本校の教育目標から「地域で生き生きと、その人らしく」暮らしていくにはどうしたらいいか学校運営協議会を通して考えていきたい。
- ・第1回学校運営協議会では学校の良さとして「子どもたちの実態に合わせて、様々な学びが行われている」、「子どもたちが笑顔で明るい」、「ICT 機器を活用している」などの意見が出された。疑問や課題点としては「保護者同士のつながりはどうか」、「卒業後の進路、就職は」、「地元地域での居場所作りにつなげるためにはどうしたらよいか」、「子どもたちの良さを地域社会での豊かな生活にはどのように生かすか」などの意見が出された。
- ・第1回学校運営協議会で出された意見や提案を以下4つにカテゴリー化した。
 - ①卒業後の支援・進路に関する課題と提案
 - ②地域とのつながり・居場所作り
 - ③学校の教育・文化・広報活動
 - ④地域資源を活用した活動・就労支援
- ・上記のカテゴリー化を参考に第2回学校運営協議会で部会の設定をした。
 - ①未来 WAKUWAKU 部会
 - ②地域と人の交流部会
 - ③学校教育支援部会
 - ④地域学校協働部会

(2) 熟議

①部会、テーマ、グループ分け

未来 WAKUWAKU 部会（ファシリテーター：鈴木正俊 下都賀教育事務所ふれあい学習課長）

テーマ：卒業後の進路について考える

グループ：A～E

地域と人の交流部会（ファシリテーター：悴田伸一 県教委事務局生涯学習課副主幹）

テーマ：学校と地域と一緒にできることは ～多様なつながりを求めて～

グループ：F～I

学校教育支援部会（ファシリテーター：梁木直人 県総合教育センター 生涯学習課 社会教育主事）

テーマ：授業で子どもが豊かな体験をするには

グループ：J～N

地域学校協働部会（ファシリテーター：椎名裕美 下都賀教育事務所 ふれあい学習課副主幹）

テーマ：子どもを核に双方向で連携できること

グループ：O～S

②ぜひ実現させたい取り組むべきもの3つとその課題

○未来 WAKUWAKU 部会

班	実現したいこと	実現するための課題
A	①施設や企業のオープンキャンパス。 ②卒業生、保護者からの情報提供。 ③グループホーム利用にあたり、課題を確認できる宿泊施設を作る。プレグループホーム制度。	①障害の理解等、企業の担当者への啓発。 ②業務時間内にできるか。動画作成が得意な地域の方に依頼できないか。 ③利益を求めない施設の協力者が必要。
B	①卒業生の講話。 ②卒業担任から身に付けておくべきことの引き継ぎ資料の作成。 ③校内実習期間を延ばし、2～3種類の業種の作業をできるようにする。	①対象者を誰にするか。卒業生に休みを取ってもらう必要がある。企業や施設からの協力。 ②作成時間がかかる。 ③教育課程の検討が必要。指導体制の確保。
C	①同窓会を中心に卒業生と在校生の交流。 ②保護者も参加できる施設との交流。 ③クラブ活動として余暇活動の充実につながる活動を行う。	①人や予算が足りない。 ②協力者や予算が必要。どの場所で開催するか。 ③年間指導計画の見直し。
D	①保護者同士の情報交換ができる場が欲しい。 ②施設や卒業生とのつながりの場を作る。施設の見学・販売所の利用など今まで以上にラフに関われる場を作る。 ③卒業生の話を本校生徒が聞ける場を作る。	①在校生の保護者に対して意義やなぜ必要なのか伝える。日程調整。場所や誰が声をかけるか。行政福祉との連携。 ②施設の遠さ。場所までの移動が困難。施設の協力を得る必要がある（施設の多忙さ、人手不足になるのでは）。 ③卒業生の協力、日程調整、授業との兼ね合いが必要。
E	①今以上に座談会や情報交換の場を設ける。 卒業生の保護者との意見交換、部門や学年を超	①発起人の問題、場所、計画者、時間の設定。学校側が業務時間内にできるのか。

	えての意見交換ができる場の設定。 ②WAKUWAKU 事業所ツアー。学部、学年で目標を設定しながら事業所見学を必要に応じて保護者ととともに実施する。 ③WAKUWAKU 生活。自分で働いたお金で好きなことをする。自由にお出かけする。	②複数回に分ける等の工夫をして参加人数を増やす。相手先との兼ね合い、グループ分け。 ③資金面(タクシー券や電車券を市役所と連携してどうにかできないか)、交通機関との調整、連絡手段。
--	--	---

○地域と人の交流部会

班	実現したいこと	実現するための課題
F	①学校で魚のつかみ取り大会。つかまえた魚を駐車場で焼いて食べる。 ②クリーン活動など奉仕活動で地域に貢献する。参加した回数のポイント制で高等部の商品などを贈呈する。 ③しもつかれなど郷土料理を地域の方から作り方を教わり、一緒に作る。	①魚の入手方法、購入費用。衛生面などの安全確保。 ②エリアをどうするか。奉仕活動団体とどのように連携するか。引率は教員と保護者でどの程度か。 ③学校か公民館か活動場所の確保(ある程度の人数が入れる調理場)。
G	①地域イベントへの参加(お祭りや農業体験)。 ②地域での防災訓練。 ③近隣の商業施設に栃特常設コーナーを設置。	①誰が中心に進めるか。拠点地域の明確化。農業体験の協力者が必要。 ②様々な情報をまとめるのに時間が必要。支援者がいない場合の協力者。保護者のニーズを聞く。 ③協力者や当番が必要。店舗側の理解。場所代等の費用。設置可能な施設の検討(駅や市役所)。
H	①地域でイベントの実施。座談会や地域のマルシェに作業製品を出展。 ②地域の方から子どもが体験できる場の提供。地域食堂。地域の名物、ものづくり体験。放課後イベント、料理教室(出張授業)。 ③防災体験イベント。リアル防災イベント(夜間避難を想定した避難訓練)。	①学校側のお金のルール。イベント主催者との連絡の取り方。教師の参加の有無。 ②移動手段。協力者が必要。主催者の選定。 ③家庭で避難所を理解しているか。費用の問題。
I	①各地域の運動会に参加する(小・中学校でも)。 ②地域の高齢者との昔遊び。 ③公民館を使った居住地イベント(ハイキング、〇〇作り、クリーン活動)。	①受け入れる側の受け入れ態勢、引率は教員か保護者か。 ②協力者が必要。どんな遊びを取り入れるか。 ③どこが主体となって行うか。
J	①地域の方々との自然活動(農作業、美化活動など)。 ②地域イベントへの参加(お祭りなど)。 ③地域連携の防災キャンプ(消火体験、避難所体験など)。	①協力してできることを学校と地域でお互いに探る。 ②参加する時間帯を選ぶ必要がある(夏なら夕方参加や規模によっては別日)。児童生徒が興味を持って参加できるものは何か(食べ物や音楽など)。 ③開催時期、場所等の環境整備。

○学校教育支援部会

班	実現したいこと	実現するための課題
K	<p>①本物に触れ合う活動（犬などの動物、移動動物園など）。</p> <p>②専門家との交流（地域のスポーツ団体、芸術家、各専門家）、地域のスポーツチームの公認サポーター・プログラミングの体験など。</p> <p>③地域の方、保護者、交流校などを巻き込んだ活動。1日キャンプや仮装マラソン、歩け歩け大会など、教員と保護者の演劇など。</p>	<p>①協力者、予算、相談窓口など。</p> <p>②協力者、予算、相談窓口など。</p> <p>③予算、日程調整、安全面の確保など。</p>
L	<p>①地域のお祭りへの参加。作業製品の販売。ダンスや音楽部の発表。</p> <p>②保護者と教員が混在したグループで茶話会や音楽鑑賞会。</p> <p>③生き物を育てる、移動動物園。</p>	<p>①授業日の問題。地域の方の協力が必要。</p> <p>②予算がかかる。PTAで開催されているが、同じ方の参加が多いため、様々な方に参加してほしい。</p> <p>③予算がかかる。アレルギー、動物園の協力が必要。</p>
M	<p>①プロスポーツチームとの交流。</p> <p>②地域の方と大会や祭りなどを実施。</p> <p>③田植えや稲刈り</p>	<p>①協力要請、どの学部でも行えるようにする。</p> <p>②どこが主体でやるか。連絡調整、栃木青年会議所や栃木商工会議所の協力。</p> <p>③農家の協力、機械購入の予算、日程調整。</p>
N	<p>①小・中・高の縦割りでキャンプ体験（焼き芋グループ、川遊びグループなどに分かれる）。</p> <p>②農芸班で採れたものをみんなで調理する。テントで寝る防災学習。</p> <p>③夜にお祭り、出張駄菓子屋、花火、大きなスクリーンで映画鑑賞。</p>	<p>①②③安全面、行政との協力、協力者がたくさん必要、予算がかかる、大学生の協力、クラウドファンディング。</p>

○地域学校協働部会

班	実現したいこと	実現するための課題
O	<p>①レストランや食堂などの調理担当の方や農家の方といったその道のプロの方をお呼びし、調理実習や農園の講師として参加してもらう。</p> <p>②児童生徒の作った料理やお菓子を「子ども食堂」として学校の食堂を開放して提供し、地域の方に来て食べてもらう。</p> <p>③農業やレジなど、職業体験。</p>	<p>①誰に依頼して良いのか分からない。</p> <p>②費用がかかる。調整してくれる人がいると助かる。</p> <p>③誰に頼めばいいのか分からない。</p>
P	<p>①お笑い芸人を招き、お笑いやコントをしてもらう。</p> <p>②地域のイベントへの参加（お祭りや福祉施設のイベント）。</p> <p>③様々な分野の音楽家を招き、演奏を聴く、または一緒に演奏する。</p>	<p>①資金面。誰を呼ぶか。来てくれるのか。時間や場所の打合せが必要。</p> <p>②参加できる行事を探す必要。移動手段、バスは出るのか。場所の確保。時間や場所の打合せが必要。</p> <p>③資金、場所。音に敏感な児童生徒への対応。出演者や進行はどうする。時間や場所の打合せが必要。</p>

Q	①学校周辺の地域施設や道路などの清掃活動。 ②市民ホールなどで地域の人に演奏してもらおう。生演奏を聴く活動。子どもたちが最後に楽器に触れたり、音を出したりする活動。 ③地域の子ども同士で関わる活動を。例えば地域の祭りで山車を引く、障害の有無にかかわらず子どもたち同士と一緒に過ごせる施設を作る。	①場所の確保。活動場所への移動手段がない。活動できる児童生徒に限られる。 ②移動手段がない。演奏者を探す。費用の問題。 ③場所の確保、時間と人手がない。
R	①地域とコラボ製品を作る。材料を提供してもらい、一緒に考えて製品を作り、売り出す。 ②商工会でいつでもどこでもランチ可能ショップリストの作成。食形態や車いす対応可能な場所、トイレが広い場所などの情報が欲しい。 ③タクシーのような送迎専用アプリを作る。	①材料費や人材、時間の確保。 ②リスト作成をどこが中心に行うのか。お店への連絡や情報収集をどうするか。欲しい情報のリストアップが必要。 ③福祉と連携して安くできるようにする。コストや安全性、保険の問題。アプリの作成や運営に専門技術が必要。車の手配をどこがするのか。
S	①自治会館や公民館などの近隣の建物等の清掃・美化活動。 ②出前授業(スポーツ団体との交流、伝統文化・芸能等の鑑賞や学習)。 ③「蔵の街」喫茶の取組で児童生徒が制作した物の販売を行う。	①受け入れ先の確保、日程等の調整 ②協力団体探し、相互間での担当者の負担感 ③予算や場所の確保。安全面の配慮。

(3) 発表・共有

各グループで話し合われた意見や提案を部会内で発表し、共有した。その後、全体で共有した。

4 会長挨拶（鈴木会長）

今日は熱心な議論お疲れさまでした。多様な皆さんと協働して熟議をするということがまずは成果かなと思います。その中で今日は4人の社会教育主事さんにファシリテーターをお願いしました。先生方が社会教育の手法に慣れていただくのも大変だったかと思いますが、このような研修を普通に経験できることも大事なことだと思っています。

学校運営協議会は管理職を含めた皆さんの話合いの場と思われがちですが、このような形で先生方が提案したり、学校運営協議会の皆さんと議論したりすることが、アイデアから実現に向けてのプロセスとして大事な視点。今回の提案は次の学校運営協議会に生かしていくための大事な時間であった。

「支援を受けているこの学校にいるときは非常に手厚い。」と、小澤 PTA 会長の話でもありましたが、地域に戻ったとき、あるいは卒業した後、子どもたちが幸せに暮らせるには、一人一人の教育的ニーズに応じた教育、地域社会で豊かな生活を送るために必要な力を育成するという学校目標が大切です。この学校目標の具現化のために学校運営協議会も皆さんと手を携えていきたいです。今日の話合いが次につながることを期待し、一緒に頑張っていきましょう。

コミュニティ・スクールは全国で6割が達成されています。栃木県では53%で全国より低いですが、大切なのは形骸化しないこと。そのためのポイントは熟議と地域との協働活動です。誰が主体的にやるのか、予算はどうするのか。そういったことが次のテーマとなります。先生方、委員の皆さんありがとうございました。これからもわくわくする栃木特別支援学校のコミュニティ・スクール、一緒にがんばっていきましょう。

5 閉会（杉本教頭）